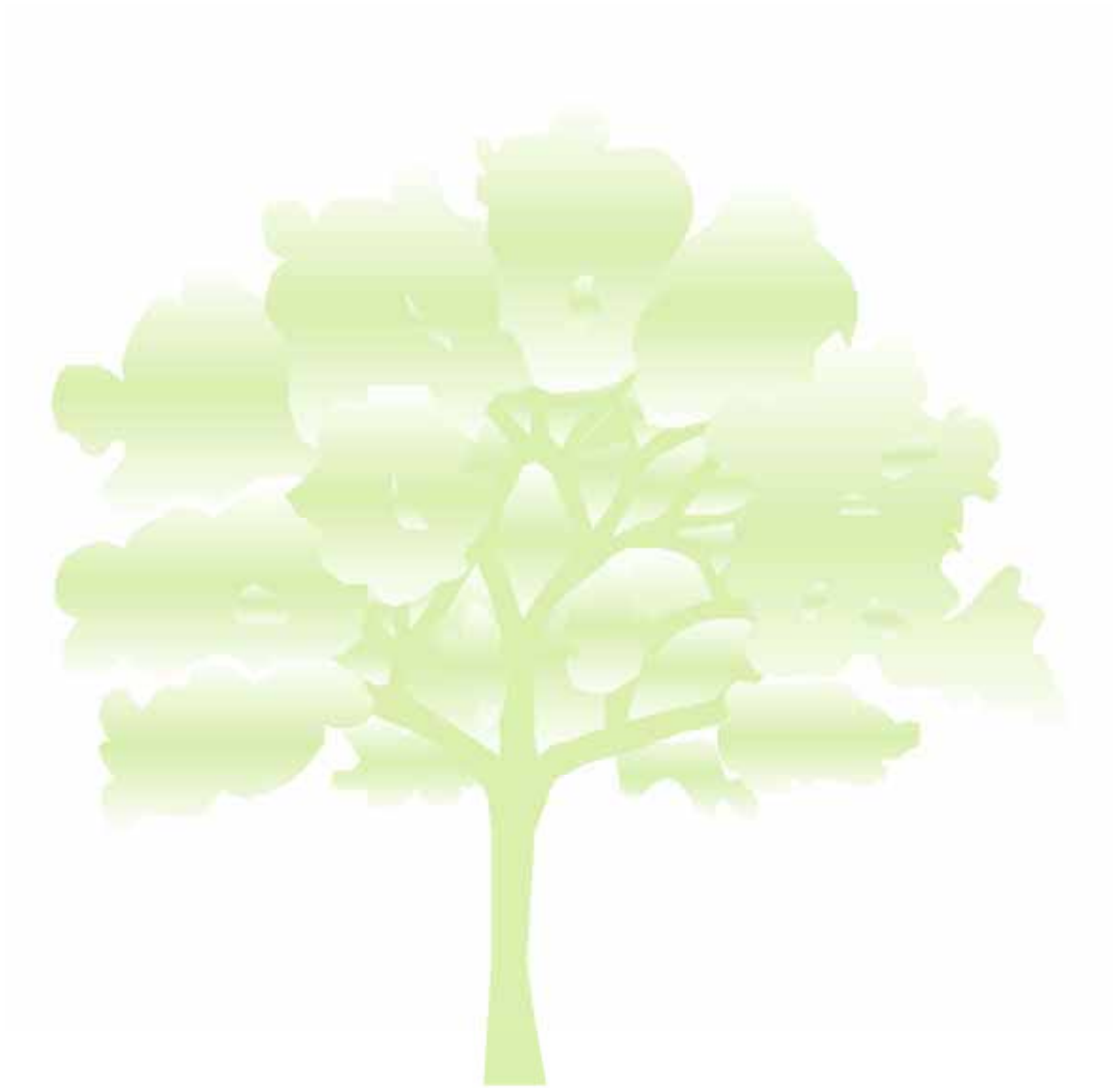




サクサグループ

環境報告書

2012



目次

目次	2
編集方針	2
会社概要	2
事業概要	2
環境報告書2012について	3
環境活動のあゆみ	3
2011年度における環境管理に影響を及ぼす 事業環境の変化等	3
ごあいさつ	4
サクサグループ環境宣言・環境方針	5
サクサグループ環境中期計画	5
環境保全活動推進組織体制	6
環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況	6
製品の環境配慮	7
環境配慮設計に関わる制度	7
サクサエコ商品	8
事業活動全般に関する環境配慮	9
地球温暖化防止のための省エネルギー活動	9
廃棄物削減・循環資源化活動	9
化学物質管理、ポリ塩化ビフェニルの管理、規制遵守状況	10
緊急事態対応、環境教育・啓発、グリーン購入	11
2011年度(平成23年度)環境目標達成状況	11
2011年度(平成23年度)環境負荷物質の投入・排出	11
社会貢献活動を通じた環境への寄与	12

会社概要

商号	サクサホールディングス株式会社
本社所在地	〒108-8050 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
設立	2004年2月2日
資本金	108億円(2012年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 越川 雅生
年間売上高	390億円(2012年3月期実績・連結)
グループ従業員数	1,352名(2012年3月31日現在)
経営理念	独創的な技術を核に、新しい価値を創造し、 活力とゆとりある社会の発展に貢献する
<サクサグループ(2012年3月31日現在)> 連結決算範囲	
サクサホールディングス株式会社(持株会社)	
├ サクサ株式会社(中核事業会社)	
│ └ サクサテクノ株式会社(生産会社)	
│ └ サクサテクニカルサービス株式会社(修理会社)	
│ └ 株式会社コアタック(生産会社)	
└ サクサシステムエンジニアリング株式会社(システム開発会社)	
└ 株式会社システム・ケイ(システム開発会社)	
└ サクサプロアシスト株式会社(グループ内サービス会社)	
├ サクサプレジジョン株式会社(生産販売会社)	
├ サクサビジネスシステム株式会社(販売会社)	
└ サクサアドバンスサポート株式会社(保守サービス会社)	
サクサグループの環境保全活動推進組織外であるため、本報告書での活動報告範囲外としています。	
連結決算範囲外のグループ企業 株式会社システム・ケイ子会社である株式会社マイスター(システム開発会社)、サクサプレジジョン株式会社の子会社である東莞可比世电子有限公司(中国・生産会社)	

編集方針

参照ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)を可能な範囲において参考にし、作成しています。
公表媒体	本報告書は、紙資源使用抑制の観点から、サクサグループホームページでのWebによる公開のみとします。 http://www.saxa.co.jp 「環境への取り組み」
発行日	2012年9月19日(毎年、9月下旬)

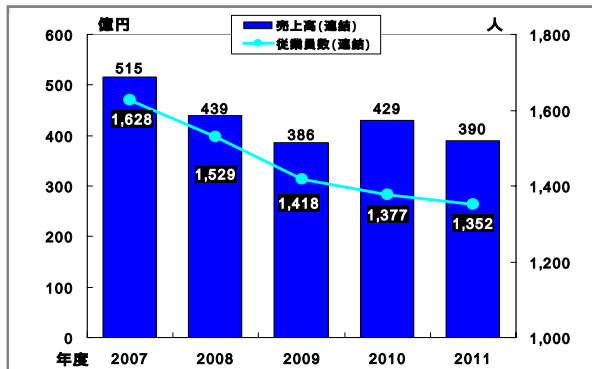
事業概要

サクサグループは、「つなげる技術の、その先へ。」をコーポレートメッセージとし、今まで培ってきたコミュニケーション機器の提供からさらに進化したお客様の安心、安全、快適、便利を実現し、お客様の明日を担う商品、ソリューションの提供を目指す企業グループです。

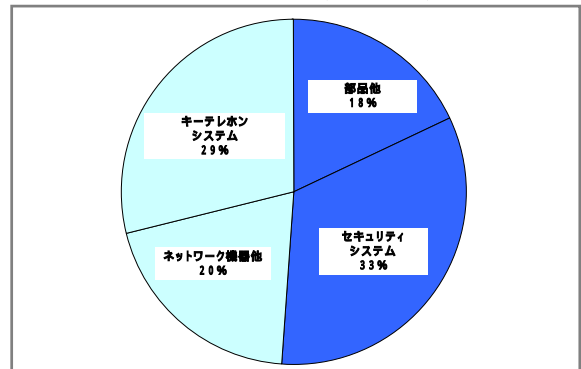
事業領域 <ソリューション・商品>

IP対応中規模事業所向けキーテレホンシステム、IP電話機、IPインターホン、IPドアホン、光関連機器、ネットワーク応用機器、VoIP通話録音システム、警備保障会社向け警備システム、火災通報装置、オートホンシステム、ホームセキュリティシステム、インターネットカメラシステム、キャンパス・企業向けカードシステム、一斉配信システム、TV会議/Web会議システム、各種カードR/W、ネットワークビデオレコーダ、警報機、センサ関連商品、画像認識システム

サクサグループ売上高・従業員数の推移



領域別売上高比率(2011年度)



会社概要、事業概要等の詳細については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp>)の「企業情報」および「株主・投資家の皆様へ」に掲載した公表資料等で、また、ソリューション・商品の詳細は「製品・システム情報」「ソリューション」でご覧になれます。

環境報告書2012について

対 象 期 間	本環境報告書は、2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)における状況、成果等を公開するものですが、内容により、当該年度前後の事項に関するものを含む場合があります。必要に応じ時期を記載します。																																																																																								
活動結果、実績等に関する対象範囲 (商号、所在地は2012年4月1日現在で記載しています。)	<p>本報告書に記載した内容は、以下のグループ会社によるものです。 必要により、これ以外のグループ会社、拠点等に関する情報を記載する場合は、会社名、拠点名等を記載します。 なお、環境データは、自社で直接把握、管理できる範囲として、～の6事業場について集計、記載しており、テナントとして賃貸フロアに入居しているオフィス、営業拠点等は含みません。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサホールディングス株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサ株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサシステムエンジニアリング株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサテクノ株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサプレジジョン株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>株式会社コアタック</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサビジネスシステム株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサアドバンスサポート株式会社 2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサテクノカルサービス株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>サクサプロアシスト株式会社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>本社所在地：その他の事業所等はテナントとして入居 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー 神奈川県相模原市中央区宮下3-14-15 埼玉県鴻巣市上谷1805-1 山形県米沢市東1-10-71 山形県米沢市八幡原4-3146-13 山形県米沢市中田町1713 青森県八戸市北インター工業団地1-3-54</p> <p>1 テナントとして入居しているため、環境データは集計範囲外としています。 2 サクサアドバンスサポート株式会社は、相模原オフィスにおけるエネルギー、廃棄物のデータのみ集計範囲に入っています。 (本社：東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル)</p>		1							サクサホールディングス株式会社								サクサ株式会社								サクサシステムエンジニアリング株式会社								サクサテクノ株式会社								サクサプレジジョン株式会社								株式会社コアタック								サクサビジネスシステム株式会社								サクサアドバンスサポート株式会社 2								サクサテクノカルサービス株式会社								サクサプロアシスト株式会社							
	1																																																																																								
サクサホールディングス株式会社																																																																																									
サクサ株式会社																																																																																									
サクサシステムエンジニアリング株式会社																																																																																									
サクサテクノ株式会社																																																																																									
サクサプレジジョン株式会社																																																																																									
株式会社コアタック																																																																																									
サクサビジネスシステム株式会社																																																																																									
サクサアドバンスサポート株式会社 2																																																																																									
サクサテクノカルサービス株式会社																																																																																									
サクサプロアシスト株式会社																																																																																									
お 問 合 せ 先	サクサホールディングス株式会社 総務人事部 〒108-8050 東京都港区白金1-17-3 NBF プラチナタワー TEL:03-5791-5511 FAX:03-5791-5562 E-mail:eco@saxa.co.jp																																																																																								

環境活動の歩み

年	主 な 出 来 事
2004(H16)	田村大興サクサグループ発足、グループ一体となったEMSを構築、運用開始(4月)
2005(H17)	・サクサ株式会社として ISO14001 認証取得済みの本社、相模原、米沢地区に加え、中延事業場を、また、関連事業所としてサクサシステムエンジニアリング株式会社(青森県八戸市)、サクサテクノカルサービス株式会社(栃木県矢板市)を拡大登録、田村大興サクサグループ一体となった認証取得完了(3月) ・サクサエコ製品基準制定、認定開始(4月)
2006(H18)	・閉鎖事業場(目黒・中延・栃木)からのポリ塩化ビフェニル使用機器移動、届出完了(～3月) ・ISO14001 2004年版認証へ移行(3月) ・有害元素蛍光X線検査装置稼働開始(4月) ・相模原オフィス 5トンボイラー廃止(5月)
2009(H21)	・サクサグループグリーン調達ガイドラインをホームページに公開(6月)
2010(H22)	・サクサ株式会社のISO14001 認証取得範囲にサクサプレジジョン株式会社本社(埼玉県鴻巣市)を拡大登録(3月)
2011(H23) ～2012(H24)	・CSRの一環としての環境保全活動の位置付けを明確にするため、サクサホールディングス株式会社に環境保全活動の主管部門を設置(2011年4月)、ISO14001 認証登録企業もサクサホールディング株式会社に変更(2012年3月)

2011年度における環境管理に影響を及ぼす事業環境の変化等

2011年度は、環境管理サクサグループに関する次の事業環境上の変化がありました。

環境管理上に影響を及ぼす事業環境の変化	対 応
サクサロジスティクス株式会社とサクサプロアシスト株式会社は、グループ内の事業再編を経て、2011年4月1日からサクサプロアシスト株式会社として業務を行っています。	サクサプロアシスト株式会社が受託している事業場管理について、事業再編により環境管理上支障が起きないように留意しました。サクサロジスティクス株式会社が行っていた産業廃棄物処理事業については、許可証の変更を行いました。
東日本大震災の影響による東京電力、東北電力管内の電力逼迫により、電気事業法第27条による電気の使用制限が発動され、サクサグループにおいては、サクサ株式会社相模原オフィスおよび米沢事業場、サクサテクノ株式会社(第一工場)が大口需要家として適用を受けました。	当該事業場では、制限対象期間における使用最大電力の前年夏実績から15%削減に向け、緊急節電対策と電力使用状況監視を実施しました。 米沢地区では、サクサ株式会社米沢事業場、サクサテクノ株式会社による輪番稼働も実施しました。
サクサプロアシスト株式会社は、産業廃棄物中間処理業許可が2012年1月27日に有効期間が満了となることに伴い、産業廃棄物中間処理業を終了し、東京都、神奈川県から取得していた産業廃棄物収集・運搬業については、同年3月末をもって廃止しました。	すでに処理の受託はグループ内各社およびグループの業務に関連するお取引先様に限っていましたが、新たな業者の紹介等を行い、産業廃棄物の処理が滞ることのないよう対応しました。

ごあいさつ



サクサホールディングス株式会社
代表取締役社長

越川 雅生

2011年度は、東日本大震災後の復旧、復興および電力不足への対応に国をあげて取り組む中、タイの洪水被害が発生し、今までに経験のないほど自然災害の事業活動への影響を大きく受けた年となりました。

特に、東日本大震災は、本当の豊かさ、大切なものは何かを考え直すきっかけとなり、「絆」の大切さが言われるようになりました。

つなげることの大切さ、つながっていることの大切さ。

サクサグループのコーポレートメッセージである「つなげる技術の、その先へ。」が持つ意味、メッセージにより皆様から期待される役割を改めて認識しております。

現在、情報通信ネットワーク関連市場では、サービスの多様化および高度化が加速的に進展していることに加え、業態のボーダーレス化が進んでいます。サクサグループも、コアコンピタンスであるネットワーク技術、ビジュアル技術、セキュア技術を融合させたソリューション・商品をオフィス市場、アミューズメント市場、社会インフラ・文教ノ介護市場、交通・決済市場などに広く提供しており、安心で安全、快適で便利な環境を実現し、活力とゆとりある社会の発展に貢献することを目指しています。

「つなげる技術の、その先へ。」

サクサグループの「つなげる技術」は、変化する社会のニーズに応じ他の技術を組み合わせ、さらにつながりを広げていくことで、さまざまな場面、市場に活用していくことが可能であり、それによって現在の価値観に合った豊かな社会の発展に貢献していくことが、我々の担うべき社会的責任と考えております。また、企業市民としては、地球環境への負荷をできる限り低減するとともに、環境汚染の防止を図ってまいります。

サクサグループを今後ともご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



サクサホールディングス株式会社
常務取締役
CSR推進担当

サクサグループ
環境総括責任者

鈴木 譲

2011年度のサクサグループの環境保全活動は、いままでの活動を社会的責任の視点でさらに発展すべく、新たな組織体制が始動した年となりました。改編の効果が見えてくるのはこれからですが、環境保全の課題に真摯に取り組み、成果が見えるよう推進してまいります。

東日本大震災とそれに続く原発事故では、まだまだ多くの被災者の方々がつらい日常を送られていることに心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

節電の夏も二回目となり、電力使用に関し知恵を絞ることは当たり前となりました。サクサグループでは従来から地球温暖化防止を目的とした省エネルギー活動を推進してまいりましたが、省みれば、省エネルギーを図る余地がある中、便利さ、快適さ、設備等の価格などの要因が先行される場面もあったことは否めません。緊急節電対策を経験した今では、グループ会社全体で認識を同じくし、一丸となって取り組み、成果をあげたことによる意識の変化を感じています。今後も、これらの対策を継続、発展させ、事業活動にあたっては、常に、最小限のエネルギー消費で最大の事業効率をあげることを念頭に、経営と環境保全の融合を図ってまいります。

そして、環境方針に掲げたとおり、省エネルギー、循環資源化、有害物質による汚染防止など、環境に配慮した事業活動を基盤として、サクサグループが持つ技術を生かしたソリューション・商品の開発、提供を行っていくことにより、低炭素社会、循環型社会の実現に寄与できるよう推進いたします。

サクサグループ環境宣言・環境方針

サクサグループ環境宣言



サクサグループは、
すべての事業分野において環境に配慮した事業活動を推進し、
自然と調和した持続可能な社会の発展に貢献します。

サクサホールディングス社長

環境方針

環境宣言に基づき、次の行動指針を定め、
サクサグループのひとりひとりが環境保全活動を実行します。

行動指針

1. 地球環境問題が経営における重要課題であるとの認識を持ち、企業としての社会的責任と社会的貢献の役割を果たすため、環境経営を推進します。
2. 情報通信ネットワーク機器ならびにシステム等に関わる開発、設計、製造、販売、保守その他付帯事業を展開していることを踏まえ、グループ一体となって環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全に取り組みます。
3. 内部環境監査およびマネジメントレビューにより環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全活動を推進します。
4. 関連する環境法規制、協定および同意した要求事項、必要に応じて定める自主基準を遵守します。
5. 事業活動、製品、サービスによる、緊急時を含む環境への影響を認識し、適切に管理することにより環境汚染の予防を図ります。
6. 環境方針達成のため、環境に配慮した製品づくり、環境に配慮した事業活動、環境管理を3つの柱とした環境目的・目標を設定し、すべての事業分野をとおして、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、循環資源化、有害物質使用削減等に取り組みます。
7. 地域や取引先をはじめとする利害関係者とのコミュニケーションを図り、連携して環境の改善に努めます。
8. 環境方針を全従業員に周知し、環境への意識向上を図ります。

環境総括責任者
2011年4月28日改訂

サクサグループ環境中期計画

環境方針に沿って中期計画(環境目的)を策定し、環境の継続的改善に取り組んでいます。
中期計画は、年度ごとの達成状況および事業環境の変化等に照らして毎年見直しを行い、改訂しています。
この中期計画に基づき、年度ごとに具体的な環境目標を設定し、環境方針の具現化を推進しています。

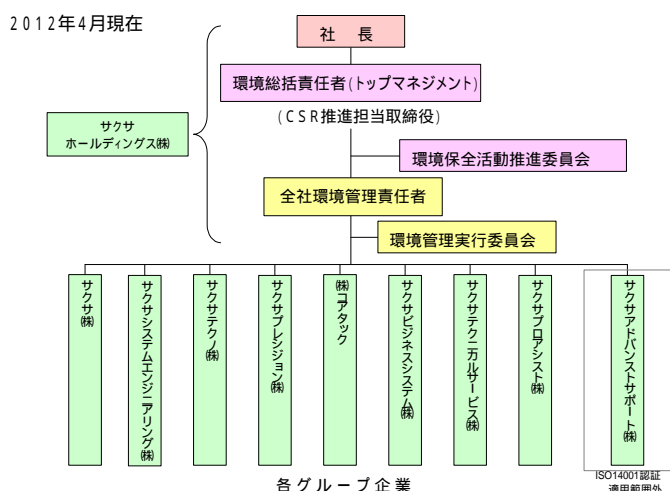
(2012年度版) は、2011年度版から内容変更または追加した箇所

1. 環境に配慮した 製品づくり	(1) 製品含有化学物質管理体制の確立 製品含有化学物質管理体制の充実とREACH規則対応等に向けた管理体制の整備
	(2) 環境配慮製品の拡大・充実 サクサグループ環境配慮製品対象分野の拡大とユーザーメリットを考慮した環境配慮製品の創出
2. 環境に配慮した 事業活動	(1) 地球温暖化防止 サクサグループ全体の省エネ取り組み徹底 サクサグループ所有事業場()において、エネルギー使用量原単位を2020年に向け、年平均1%改善
	(2) 廃棄物等の削減・循環資源化 産業廃棄物排出量原単位の改善(資産等の廃棄に関わるものを除く) 事業系一般廃棄物排出量原単位の改善(剪定による木くずを除く)
	(3) 資源の有効活用 用紙使用量削減
3. 環境管理	(1) 環境マネジメントシステムの向上 経営に寄与する環境マネジメントシステムへの改善

サクサ相模原オフィス、サクサ米沢事業場、サクサテクノ(八幡原)、サクサプレジジョン(埼玉本社・米沢事業所)、サクサシステムエンジニアリング(八戸本社)

環境保全活動推進組織体制

CSR活動の一環としてサクサグループ一体となった環境保全活動を推進するため、持株会社であるサクサホールディングス株式会社に環境保全活動推進委員会を設置し、活動を行っています。



環境保全活動推進委員会は、各グループ企業の代表を含むメンバー構成で、サクサグループにおける中期的な環境計画、年度目標その他環境保全活動における重要事項を審議するとともに、年度末においては環境マネジメントレビューを実施し、次年度以降の計画の見直しを行います。

各グループ企業は、それぞれが独立した実行単位としてグループ全体の計画、目標に沿って、また、独自の視点も加えた目標設定を行い、活動を実施します。

グループ各社における活動のレビュー結果は、グループの環境マネジメントレビューに反映し、サクサグループ一体となった環境保全活動の推進を図っています。

環境マネジメントシステム・ISO14001認証取得状況

サクサグループでは、ISO14001:2004に沿った環境マネジメントシステムを構築、運用しています。また、サクサホールディングス株式会社を登録事業者として、グループ企業を含めたISO14001認証を取得しています。

< 環境マネジメントシステムの継続的改善 >

環境マネジメントシステム運用状況を確認し、適合性、妥当性、有効性を判断するため、年1回下期に定期内部環境監査を実施し、発見された不適合事項、改善事項について、是正、改善を行っています。

また、毎年、環境マネジメントシステム認証機関により、客観的な視点から審査を受け、指摘に対する改善を行うことによって、レベルアップを図っています。

年度末には、各実行部門ごとに、環境目的・目標の達成状況、法規制等の遵守状況、内部環境監査の結果等をもとに環境マネジメントレビューを実施し、結果を環境総括責任者へ報告しております。

報告された内容は環境保全活動推進委員会で行うグループ全体の環境マネジメントレビューで総括し、環境マネジメントシステム、環境に関する計画等に反映し、継続的改善につなげています。



< ISO14001認証取得状況 >

2012年2月の定期審査の受審にあたって、登録事業者をサクサ株式会社からサクサホールディングス株式会社に変更しました。登録サイト、登録活動範囲は従来どおりです。

< 登録範囲 > 2012年3月16日現在
()内は、複数の事業場・拠点がある場合における対象サイト
登録事業者: サクサホールディングス株式会社
登録活動範囲: ボタン電話装置、カード関連機器、ネットワーク機器、セキュリティ機器、その他部品の設計・開発、製造および販売

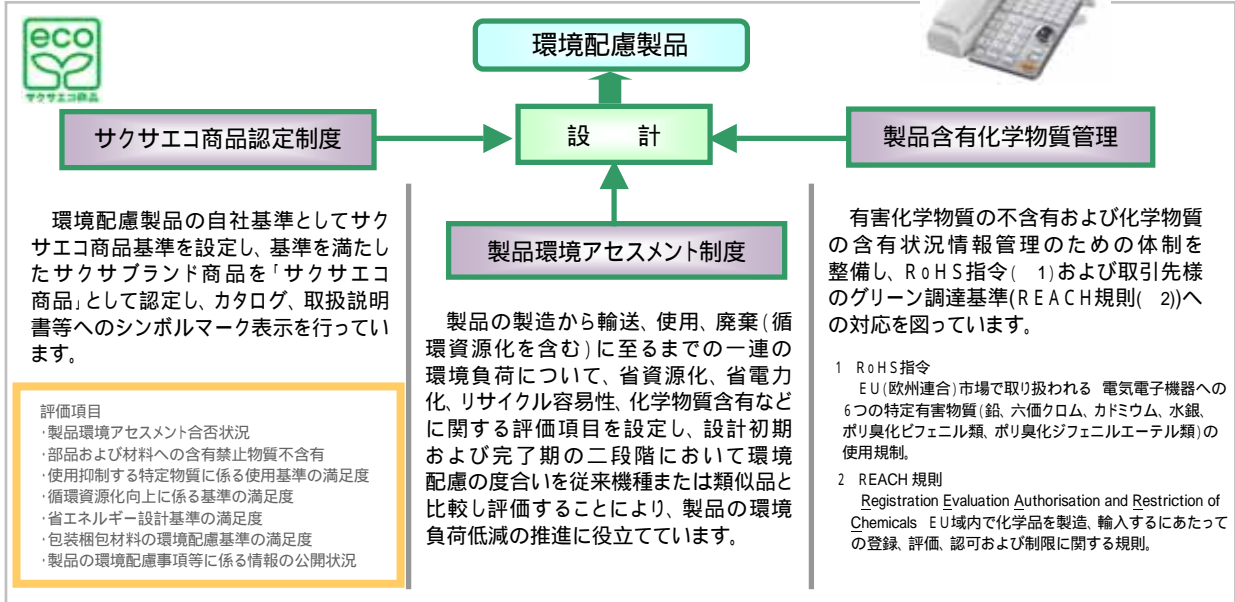
関連事業所
サクサ株式会社(本社、相模原、米沢)
サクサシステムエンジニアリング株式会社(八戸本社、相模原)
サクサテック株式会社
サクサプレジジョン株式会社(埼玉本社、米沢事業所)
株式会社コアタック
サクサビジネスシステム株式会社(本社)
サクサテクニカルサービス株式会社
サクサプロアシスト株式会社(相模原、米沢)

サクサプレジジョン株式会社の子会社である東莞可比世電子有限公司(中国・生産会社)は、審査登録機関AFAQ - AFNORから、ISO14001:2004認証を受けています。登録番号: GE07283

製品の環境配慮

製品の環境配慮は、お客様や社会からの重要なニーズと考えています。
製品の設計に際して環境配慮を推進するための制度を設け、環境配慮設計に努めています

環境配慮設計に関わる制度



サクサグループグリーン調達ガイドライン

サクサグループグリーン調達ガイドラインを定め、サプライヤー様には製品含有化学物質管理で定めた含有禁止物質の不含有をお願いするとともに、化学物質含有情報について提供協力いただいております。
化学物質に関する事項はもとより、環境に配慮した企業から、環境に配慮した物品を調達するための基準を定めています。

最近発表したエコ商品

低消費電力の無線LANセンサ

2012年8月発売

サクサ株式会社



低消費電力の無線LANチップを用いた無線LANセンサを用途別に2機種発売いたしました。

低消費電力の無線LANチップ、パッシブセンサ(WL110のみ)などの低消費電力部品を採用するとともに、間欠電源投入などにより省電力設計を図ったものです。

電力の安定供給が不透明で電力コストが上昇する中、節電意識の高まりから消費電力の見える化が求められています。

また、エアコンや照明の消し忘れによる無駄な電力消費を防ぐための見張り役などのニーズが高まっています。

WL100、WL110は、少ない電力消費で、このようなニーズに特別な配線工事をすることなく既にご利用の無線LANアクセスポイントを利用することで実現が可能です。

WL110は高齢者などの見守りシステムにも利用できます。



特別な配線工事不要で消費電力の見える化を簡単に実現
WL100



各種センサに加え、家電制御用の赤外線学習リモコン機能搭載でエアコンや照明等の制御が可能
WL110

製品の環境配慮

サクサエコ商品



2012年9月現在の認定商品から主なものを紹介します。



豊富なビジネスホン機能はもちろん、
IPネットワーク機能とセキュリティ機能を強化した
中小規模事業所向けキーテレホンシステム
Agrea HM700 (Pro/Std)



レガシー、ハイブリッドからフルIPシステムまで
柔軟なシステム構築可能な
大規模事業所向けキーテレホンシステム
Agrea LT900



Bluetooth コードレスホン
WS605
(Actys、Agrea HM700 に接続可能)



人感センサ標準搭載
Bluetooth カールコードレス電話機
CL625 (Actys、Agrea HM700 に接続可能)

IP電話サービスやルータ機能をオールインワンでコンパクトに対応した
SOHO・小規模事業所向けキーテレホンシステム
Actys (XT300) (写真はL D600 電話機)



より使いやすく進化したIPフォン
SIP準拠IP電話機
IP NetPhone SX



複数のネットワークセキュリティ機能を1台に集約
オフィスのネットワークセキュリティを低コストで強化
統合脅威管理アプライアンス
SS1000(UTM)



各種センサ実装、低消費電力、乾電池で動作可能
無線LANセンサ
WL100 / WL110



非接触ICカード対応
アナログ電話回線だけでなくインターネット回線接続にも対応
ホームセキュリティ送信機
SHA-5000/SHA-5000C (写真はSHA-5000C)



インターネット接続によるメール通報、オリジナルメッセージによる音声通報や
非接触ICカード対応など幅広いサービスを提供
中小規模事業所に最適なオフィスセキュリティ送信機
TS-MT0802 / TS-MT0802C/0802S 送信機
(写真はTS-MT0802C 送信機)



IP経路で警報や画像を転送
大規模事業所向け機械警備用送信機
TS-NT1003 送信機

各製品の仕様等については、サクサグループホームページ(<http://www.saxa.co.jp>)の「製品・システム情報」でご覧になれます。

事業活動全般に関する環境配慮

地球温暖化防止のための省エネルギー活動

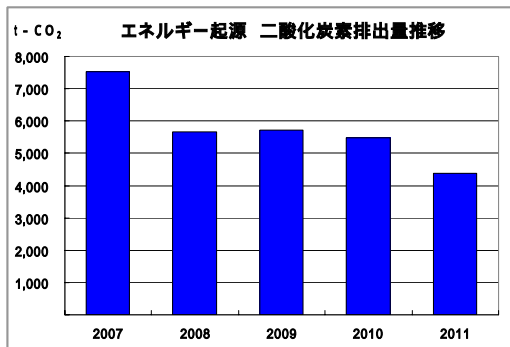
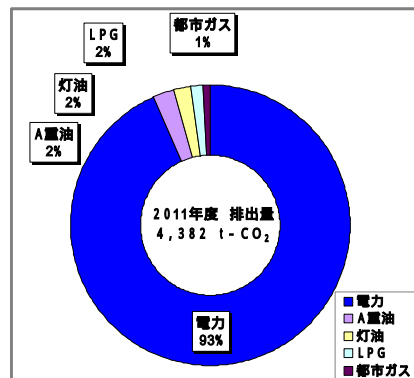
地球温暖化防止および節電のため、省エネルギー活動を推進しています。2011年度は、東日本大震災による電力供給逼迫への対応として、照明の間引き、自動販売機の一部消灯や停止、空調温度設定の徹底、夏季一斉休暇などをはじめとする節電対策を実施しました。

サクサ株式会社相模原オフィス、米沢事業場およびサクサテクノ株式会社第1工場は大口需要家として電気事業法第27条による電力使用制限の対象となり、使用最大電力の削減に向けてデマンドコントロール等による管理を行うとともに、米沢地区においては輪番稼働を実施し、制限値を順守しました。

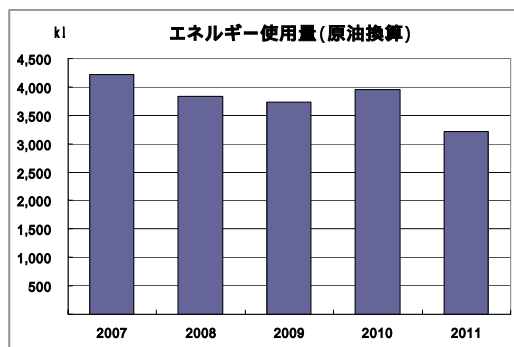
制限期間終了後も、業務に支障のない範囲で施策を継続するとともに、設備更新時における省エネ効果の検討など、省エネルギーの推進を図っています。

ビルの賃貸フロアに入居しているオフィス、拠点等についても、サクサグループの施策に沿って、また、ビル管理会社の指示に従い、空調温度設定、クールビズ等を実施しています。

2011年度
エネルギー使用による二酸化炭素排出量内訳



電力使用量の二酸化炭素排出量への換算係数は、電気事業連合会公表の排出量原単位実績値を使用。2011年度は現時点で公表されていないため、2008～2012年度における排出原単位目標値を使用。



サクサグループにおいては、エネルギー使用量原油換算値集計の結果、エネルギーの使用の合理化に関する法律に定められた「特定事業者()」として指定を受ける企業はありません。

事業者全体の1年度間のエネルギー使用量原油換算値が1,500キロリットル以上であれば、事業者は国へ届け出て、特定事業者の指定を受けます。

注)掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している6事業場。対象事業場については、3ページ「環境報告書2012について」を参照下さい。また、対象エネルギーには、構外を走行する車両のガソリン、軽油を含みません。

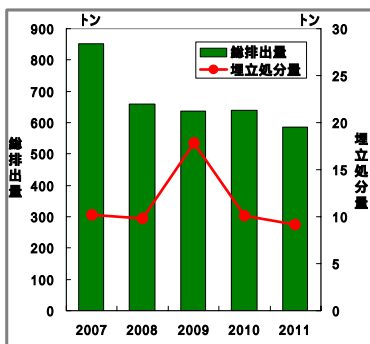
廃棄物削減・循環資源化活動

事業活動に伴い発生する廃棄物について、発生の抑制と循環資源化を図っています。

埋立処分廃棄物の内訳は、汚泥や混合廃棄物です。産業廃棄物の排出においては、できる限り循環資源化を図ることのできる処理業者を選択するとともに、有価物化も検討しています。

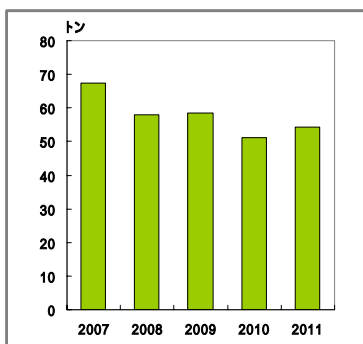
事業系一般廃棄物については、事業者の責任として、できる限り排出を抑制し循環資源化を図ることにより、自治体の清掃工場の負担を減らすよう、継続的な活動を行っています。

廃棄物等総排出量と埋立処分量の推移



・総排出量には、有価物も含まれます。
・埋立処分量は、サクサグループ各社から産業廃棄物処理業者に委託するにあたって最終処分として埋立が予定されている産業廃棄物について、処理を委託した時点で量を集計したものであり、処分業者の中間処理による減量、再生資源採取後の最終埋立量ではありません。

事業系一般廃棄物排出量の推移

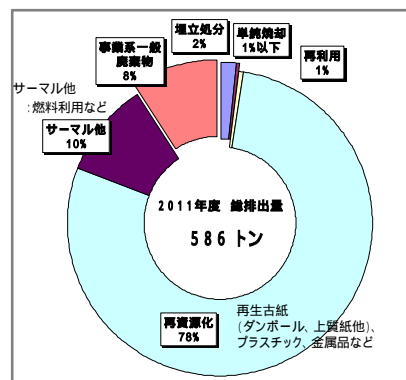


剪定による切り枝は除く。

注)掲載したグラフの集計範囲は、サクサグループが所有している6事業場。対象事業場については、3ページ「環境報告書2012について」を参照下さい。

なお、対象事業場以外のテナントとして入居しているオフィス、拠点等からは、ビル管理会社を通して事業系一般廃棄物を排出しているほか、オフィス備品等の産業廃棄物については、適切に処理委託をしています。

2011年度 廃棄物等の処分方法別内訳



事業活動全般に関する環境配慮

化学物質管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)」では、事業者に対して、環境に重大な影響を及ぼす化学物質を適切に管理することおよび一定要件に該当する場合、排出量、移動量を届け出ることが定められています(PRTR制度)。

サクサグループでは、この趣旨を踏まえ適切な管理を行うとともに、可能な限りの使用抑制・削減を図っています。

2011年度の状況において、サクサグループ内では、株式会社コアタックがPRTR制度の届出要件に該当することから、2012年6月末までに届出を行いました。

届け出を行った事業所の名称 (過去における届け出を含む。)	第一種指定化学物質の名称	年度別移動量(単位:kg) (廃棄物として処理するために当該事業所外へ移動した量)				
		2007	2008	2009	2010	2011
サクサテクノ株式会社(山形県)	鉛及びその化合物	29	20	7	-	-
サクサプレジジョン株式会社 米沢事業所(山形県)	アンチモン及びその化合物	16.4	-	-	-	-
株式会社コアタック(山形県)	アンチモン及びその化合物	0	0	97	178.3	172.3

- : PRTR対象物質の取扱量集計の結果、化管法に定められた届出基準に該当しなかったため、届出は行っておりません。

ポリ塩化ビフェニル(PCB)の管理

ポリ塩化ビフェニルは、難分解性の性状を有し、人の健康および生活環境に有害な物質であり、汚染の拡大を防止するため、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)廃棄物について、保管および処分の状況の届け出、期間内の処分、譲渡し・譲受けの制限などが定められています。

サクサグループにおいてPCB廃棄物を保管している事業場では、法令の定めに従い、PCB廃棄物の散逸、漏洩等による環境汚染が発生しないよう管理しています。

また、現在も使用中の照明用安定器(PCB使用機器)については、使用済となったときに確実に回収するよう管理しています。

2012年3月31日現在のPCB廃棄物保管状況

廃棄物の種類	保管量(前回届出時と増減なし)	
	相模原オフィス	米沢事業場
高圧トランス	5台	-
高圧コンデンサ	25台	10台
照明用安定器	718個	19個
PCB汚染物	-	1台

PCBの付着したウエス等を容器に密閉して保管

2011年度末時点でのPCB廃棄物の保管状況は、右表のとおりです。

なお、処理の早期登録対象機器については、日本環境安全事業株式会社に処理登録済みです。

規制遵守状況

法律や条例により規制が定められている事項について、これを遵守し、また、リスクに応じ、規制に該当しない場合でも環境への負荷を最小限に抑えるために、規制に準じた管理を行っています。

2011年度、サクサグループの事業場において、法令・条例の基準値からの逸脱はありませんでした。

事業場	項目		基準値		2011年度測定値 1
			法令・条例の基準値	自主管理値	
相模原オフィス (神奈川県相模原市)	騒音	昼間及び朝夕 (dB)	75	70	69.9 2
	振動	昼間及び朝夕 (dB)	70	65	< 30 2、3
米沢事業場 (山形県米沢市)	大気 (ボイラー) 4	ばいじん (g/Nm ³)	0.30	0.24	0.015
		窒素酸化物 (ppm)	180	144	22.3
		硫黄酸化物 (Nm ³ /h)	2.67	2.14	0.128
	騒音	昼間 (dB)	70	60	51.0
		夜間 (dB)	55	55	50.0
	振動	昼間 (dB)	65	50	< 45 3
夜間 (dB)		60	-	- 5	

1 実績値は、年度および測定ポイントの最大値を掲載

2 夜間の操業はないため、夜間の測定はしていません。測定は、稼働中の「昼間」の時間帯に実施しています。

3 当該測定機器の測定限界値以下

4 大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当するボイラー2基。測定値は、2基のデータの最大値を記載しています。

5 昼間、通常操業中の測定にて測定限界値以下であるため、夜間は測定していません。

事業活動全般に関する環境配慮

緊急事態への対応

重油、灯油の貯蔵タンクからの漏洩、化学物質の流出などの緊急事態を想定し、対応手順を整備するとともに、定期的に訓練を実施して、万が一の場合の影響を最小限に抑え、迅速に復旧できるよう備えています。

また、このようなリスクを回避するため、日常のおよび定期的に監視を行っています。

2011年度において、震災に伴うものを含め、環境への影響が発生する緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育・啓発

環境に関する啓蒙活動や自覚教育を継続的に実施し、環境意識の定着・向上を図っています。

新入社員、新任管理職研修のプログラムには環境に関する単元を組み込むとともに、業務用車両運転資格登録者への安全運転講習会におけるエコドライブ啓蒙、営業拠点における産業廃棄物管理教育や製品含有化学物質管理に関する説明会により必要な知識の普及を行っています。

その他、環境マネジメントシステム内部環境監査員の育成、フォローアップについて、毎年教育を実施し、人材の育成に努めています。

グリーン購入

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」には、事業者および国民の責務として、物品の購入等に際して、できる限り環境にやさしい物品を選ぶよう、努力義務が定められています。

この趣旨に基づき、オフィスで使われる紙類、事務用品などは、インターネットによる購入システムにより、環境配慮商品を優先的に選択するよう推進しています。

2011年度(平成23年度)環境目標達成状況

環境目標		達成度	達成状況等
環境製品づくり	(1)製品含有化学物質管理体制の確立 REACH規則(1)対応の体制を整備し、製品含有化学物質管理体制の充実を図る。		
	(2)環境配慮製品の拡大・充実 サクサグループの事業展開に即し、ユーザーメリットを考慮した環境配慮設計のしくみ構築の検討		
環境事業活動	(1)地球温暖化防止 省エネルギーの推進 サクサグループの事業活動におけるエネルギー使用量(原油換算値) 4,110キロリットル以下		実績: 3,280キロリットル (参考:前年度比 81.4%) サクサグループ所有6事業場+東京オフィス
	(2)廃棄物等の削減・循環資源化 グループ全体の埋処分率(2) 2.0%以下		実績: 1.6% (参考:前年度実績 1.6%)
	廃棄物排出抑制と循環資源化の推進 グループ全体の事業系一般廃棄物を削減し、総排出量に占める割合を9%以下	×	実績: 9.3% (参考:前年度実績 8.0%) 事業系一般廃棄物排出量は前年度実績から約3トン削減しましたが、総排出量は約54トン削減できたことにより事業系一般廃棄物の割合が増加、目標未達成となりました。
環境管理	(1)環境マネジメントシステムの向上 経営課題・品質目標等との融合定着		

- 1 必要に応じてREACH規則以外の海外規制等も含む。
- 2 埋処分率 = 埋処分廃棄物排出量 / 廃棄物等の総排出量

2011年度(平成23年度)環境負荷物質の投入・排出

資源の投入			環境負荷物質の排出		
エネルギー			大気への排出		
電気	12,028	MWh	エネルギー使用によるCO ₂	4,382	t-CO ₂
ガス(LPG・都市ガス)	26	km ³	廃棄物等		
燃料(A重油・灯油)	74	kl	総排出量	3	586 t
車両用燃料			総排出量中の事業系一般廃棄物	4	47 t
ガソリン・軽油	74	kl	総排出量中の埋処分量	9	9 t
水資源			PRTR 対象物質	2	0.4 t
上水道・工業用水	32	km ³			
地下水	1	260 km ³			
化学物質					
PRTR 対象物質	2	10.1 t			

サクサグループの事業活動

集計範囲は、サクサグループが所有している6事業場。ただし、車両用燃料は、白金オフィス分を含みます。対象事業場については、3ページ「環境報告書2012」を参照下さい。

- 1 地下水は、ほとんどを、米沢事業場における冬季融雪に利用しています。
- 2 PRTR対象物質は、「10ページ「化学物質管理」に記載した化学物質について、PRTR届出に至らなかった分を含め集計したものです。
- 3 総排出量は、産業廃棄物だけでなく、一般廃棄物、有価物等すべての排出物の合計です。
- 4 剪定による切り枝は含みません。

社会貢献活動を通じた環境への寄与

サクサグループでは、事業活動に直結した環境保全活動とあわせて、企業の社会的責任としての、社会や地域に貢献できる環境活動も推進しています。

古本売却金寄付活動への協力

サクサグループでは、ブックオフコーポレーション株式会社様による「ボランティア宅本便」活動に賛同し、2010年度から年1回、社内で不要になったり、従業員から回収した古本を集めてブックオフコーポレーション株式会社様に送付し、その売却金額をボランティア団体に寄付しています。

今までの寄付金は、開発途上国の図書館開設活動、東日本大震災復興支援としての移動図書館支援プログラムに使われています。

古本がリユース、リサイクルされることで環境保全にも寄与することができました。

地域社会とともに

サクサ株式会社相模原オフィスでは、近隣企業と合同で行う、周辺道路の清掃活動に参加しています。秋は構内の樹木からの落葉が歩道に大量に溜まり、周辺を汚します。その他、タバコの吸殻、側溝にたまったゴミなどを収集し、周辺住民の方々とよい関係を保てるよう、地域の美化に努めています。



清掃活動に集まった近隣企業の方々と

サクサテクノ株式会社では、八幡原企業協議会の交通環境部会長企業として、八幡原工業団地内および周辺の環境保全活動を推進しています。

クリーン作戦による清掃活動、道路中央分離帯への花植え、周辺の雑草取りなどの美化活動、また、地域の小学生とともに岩魚等の稚魚放流を行うなど、地域社会と一体となって米沢の恵まれた環境の保護に努めています。



八幡原工業団地内道路 花植え

